

今、共同売店が注目されています！

島に昔からある共同売店が、全国的に注目されています。その理由は？

1906年に国頭村の奥集落ではじまった「共同売店」。この集落住民が互いを支えあう相互扶助の仕組みが、今ふたたび注目されています。

近年、全国的な過疎化や買物難民が発生する中で、地域住民が地域住民のためにお店を共同で運営する事例が増えてきました。

その時に参考になっているのが、沖縄発の共同売店の考え方です。この相互扶助の仕組みは、過疎化や高齢化が進む地域では、買物難民を助けるだけでなく、福祉的なセーフティネットとしても機能する利点があり、これからの地域に必要な仕組みとして注目されています。

最近では若い女性2名が「愛と希望の共同売店プロジェクト」を立ち上げ、共同売店の仕組みをまとめ、その価値を伝えるために小冊子を作ったり、イベントを開催しています。



▲共同売店に関する小冊子

最近のできごと:8mm上映会

11月1日(金)～10日(日)に島しょ地域で開催される「うるまシマダカラ芸術祭」のプレイベントとして、「島の記憶を映し出す【8mmフィルム上映会】」が10月16日に平安座自治会館で開催されました。

映像は、宮城島島民の新屋さんの三線をBGMに、「海中道路開通」「宮城島電気点灯式」などの島の記録映像が上映されました。

解説として沖縄の昔の映像を収集・デジタル保存の活動をしている「沖縄アーカイブ研究所」さんも参加。111名の島内外の方が参加し、映像を見てよみがえった記憶などをゆんたくしました。



▲伊計島の映像を見る参加者の皆さん

問合せ



PROMOTION URUMA
一般社団法人プロモーションうるま

TEL:098-923-5995

担当：菊地

2019年
11月号
不定期発行

しましま通信

発行：(一社)プロモーションうるま

懐かしい未来があるイチチぬ島々

先進地視察で訪れた島根県雲南市にある。廃店舗を活用した共同事務所。福祉系、教育系、まちづくり会社など地域に関わる様々な人が集います。



地域づくり先進地に行ってきました




島根県雲南市は、人口約37,000人、平成の大合併で6町が合併してできた市です。市内全域が中山間地域で、過疎地域に指定されており、人口減少は日本平均の35年先を進み、高齢化率も日本平均の20年先を進んでいる、いわば「課題先進地＝課題が多い地域」です。

雲南市は「課題先進地」ですが、様々なチャレンジを行うことで「課題“解決”先進地＝課題解決の取り組みが盛んな元気な地域」になることを目指しています。

地域づくりで特徴的なのは、子ども、若者、大人の世代を問わずチャレンジが行える環境を作ったことです。



▲おっちラボへの訪問の様子

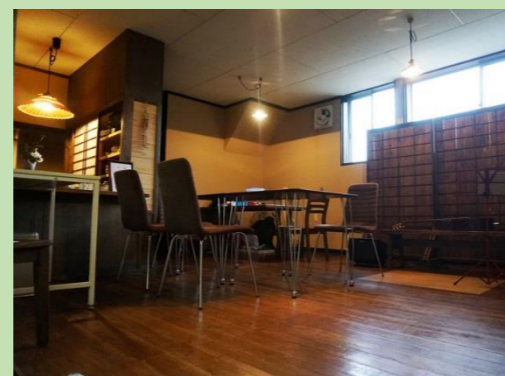
	 子ども チャレンジ	 若者 チャレンジ	 大人 チャレンジ
実施内容	都市と地域の教育機会や経済格差などの「きっかけ格差」を減らすキャリア教育	若者向け起業支援塾による、若者の地域課題解決プロジェクトづくり	新しい自治の仕組み「地域自主組織」による住民自治の展開
対象者	幼小中高生、大学生	大学生～	主に50代～
主体者	・雲南市 ・NPO法人カタリバ(東京)	・雲南市 ・NPO法人おっちラボ	・雲南市 ・市内30組織

こうして地域自主組織、NPO法人おっちラボなどが主体的に動くことで、世代を超えた挑戦の連鎖が起きています。その中で地域のプレイヤーと行政が協働（＝対等な関係で同じ目標に向かって行動する）の取り組みを重ねることで、持続可能な地域づくりに向けて活動する様子がありました。

空き家をこんな風に使っていました

佐世だんだん工房（雲南市）

雲南市中心部から30分程度の西阿用地区（約100世帯）にある「佐世だんだん工房」。自治会の持ち物件を改修して、若者向けの共同住宅にしています。若者が定住しなくとも、ここで過ごした経験が青春の1ページになり、一生の糧となるような記憶を地域で作ってほしいという思いで運営されています。



▲工房内。イベントも開催されます

あまり使っていない家を探しています



- ・お仏壇はあるけど、日常的に使う予定は無い
- ・住んでいなくて風通しや草刈りなど管理に困っているお家
- ・その他、貸してもいいよというお家



石川優子さん
(市移住定住コーディネーター)

あまり使っていないお家を、地域のために活用できる方法があるかもしれません。お気軽にご相談ください。
※行政が空き家の改修や修繕を行うわけではありません。

TEL 080-8352-2655

お試し移住、宮城区にお邪魔します

お試し移住は、島にある空き家を活用して移住希望者の方に1週間程度暮らすように滞在していただき、島での生活を体感してもらう取り組みです。

今年は、宮城島宮城区のお家を使わせていただき、11月中旬から2月中旬まで開催します。詳細は下記の通りです。集落案内などで地域を周らせていただくこともあります。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



▲実施するお宅。お仏壇もあります。

- 滞在日数：4泊～10泊
- 利用人数：1名～4名
- 利用期間：2019年11月15日～2月15日（予定）
※12/28～1/4の年末年始を除く
- 滞り場所：沖縄県うるま市宮城島の一軒家
- 利用対象：しまみらい会議で議論された内容をもとに、下記の方を優先します。
・20代～40代の方、特にクリエイター・子育て世帯・農業に関心のある方
- 利用条件：
・3年以内の移住を検討していること